

		観点		
学年	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に取り組めるように、具体物や半具体物など、視覚的に分かりやすい教材を用意する。</li> <li>計算迷路や、数ビンゴなど児童の興味が続くような練習プリントを準備する。</li> <li>授業の中に数的ゲームなどの活動を取り入れながら楽しく数的感覚を身につけられるようにする。</li> <li>ICTの活用により、パズルやビンゴなどを取り入れた反復練習を行い、関心・意欲をもって取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>求める数や事柄を明確にさせるために、問題文のポイントとなる箇所を印をつけ、ノートに立式の要素になる事柄を図に描くように指導する。</li> <li>問題文と式との関係をしっかりとらえられるようにするために、考えた過程を説明する場を多くする。</li> <li>友達の考えを聞くときには、自分の考えとおなじ点、違う点はどこか意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10の合成・分解を定着させるために、フラッシュカードや手遊びを通して、楽しみながら数の感覚を養う。</li> <li>たし算、ひき算の習熟を徹底させるために、計算カードやプリントや3分間計算などで繰り返し練習させる。</li> <li>ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作をおして形の構成について考えたりして「図形」を学習する基礎となる経験を積ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数や図形についての感覚を豊かにするために、具体物、半具体物を用いた操作活動を取り入れる。</li> <li>知識理解の定着をはかるために、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進めると同時に、他教科や実生活での具体的な場面に結びつけるようにする。</li> <li>ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手な児童も意欲的に取り組めるように、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進める。</li> <li>振り返りの時間を充実させ、時計を読み取る、ものさしで測る・直線を引く・計算する等の活動を日常生活や学習の中で活用させる。</li> <li>ICTの活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も関心・意欲をもって取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように考え、式を導き出したのかを説明する学習活動を多く取り入れる。グループやペアで発表ボードを活用して、考え方を説明できるようにする。</li> <li>具体物や掲示物・模擬貨幣などを用意して、意欲的に説明できるように準備する。</li> <li>考え方を伝え合い、表現する活動を増やしていく。</li> <li>本時のキーワードをカードにして提示し、文章題では、意識化を図る。</li> <li>絵や図を書かせて、問題の意味理解を図れるような指導をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計算のプリント、九九カードを活用した暗唱を行い、計算力を高める。</li> <li>ステップ学習プリントなどを活用し、数量や図形についての技能の定着を図る。</li> <li>ものさしを使って「長さ」を測る、直線をひくという学習活動を反復して行い、技能が正確に身に付くようにする。</li> <li>少人数クラス編成を工夫する。</li> <li>計算のスキルアップを図るために、前時の復習テストや計算小テストを毎時間行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を用意し、視覚的に理解できるように教具の工夫をしたり、具体物を操作する活動場面を多く設定したりして、数量や図形の理解を深めるようにする。</li> <li>身の回りにある数量を分類整理して、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。</li> <li>ベーシックドリルを活用し、不十分なところは練習シートで復習し、確実に学習が身につくようにさせる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまづきをなくすために、単元別のプリント教材を活用しながら、スモールステップで学習を進める。</li> <li>習熟度の段階に応じて授業の始めに必要な既習内容を復習し、自分で考えられるようにする。</li> <li>ICTの活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も関心・意欲をもって取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習と関連付けて問題を図や式に表し、見直しをもって解決していくようにする。</li> <li>具体物・図、表などを用い、自分の考えをまとめ表現する活動を多く取り入れ、数学的に考える習慣を身に付けさせる。</li> <li>問題を丁寧に読み取る力をつけるためにアンダーラインを引く、図をかくなどの文章問題を解くポイントを身につけさせる。</li> <li>文章問題では、答えを出すだけでなく、求めた値の単位までしっかりと考えさせる。</li> <li>ペアやグループで考え方を説明し、学び合う活動を多く取り入れるようにしている。(ミニ黒板やタブレットの活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算技能を高めるために、プリントを活用しながら学習を繰り返す行う。</li> <li>平面図形を構成する要素に着目して捉え、コンパス・定規などを使って、問題や作図に取り組み、技能の習得を図る活動を多く取り入れる。</li> <li>自分の考えをいかしたり、学習内容の定着を図るために、ワークシートを活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十進法、位取り、あまりと除数の大小関係などを正確に理解できるように、具体物、図、表などを用いて、考える習慣を身に付けさせる。</li> <li>日常生活や身近な事柄を取り上げて、自分の体験と結び付けて考えられるようにする。</li> <li>ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。</li> <li>計算ドリルは反復練習型を使い、何度も復習できるようにする。</li> <li>教科書の「しあげ」の問題を丁寧に扱うことで、学習内容が身に付いているかどうか自己評価ができ、復習をする必要のあるところを明らかにすることができるようにする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数指導を生かし、ステップ学習プリントを活用しながらスモールステップで学習を進める。</li> <li>習熟度の段階に応じて、授業の始めに単元の系統にあった既習事項の復習をし、知識を確かなものにする。</li> <li>導入部分での問題提示の工夫をし、関心・意欲を高めていく。</li> <li>ICTの活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も関心・意欲をもって取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考え方を説明したり、教具の使い方を教え合う等、互いに学び合う活動を多く取り入れるようにする。</li> <li>習熟度に沿った学習プリントを活用し考えさせていく。</li> <li>図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目して図形の性質について考察させ、説明できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算力を高め、かつ文章題の立式ができるようにスキルやプリントを活用して繰り返し学習に取り組ませる。</li> <li>分度器、コンパス、三角定規を使って平行、垂直といった2直線の位置関係に着目して、平行四辺形、台形、ひし形の作図をする、技能の習得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十進法、位取り、あまりと除数の大小関係などを正確に理解できるように、具体物、図、表などを用いて、考える習慣を身に付けさせる。</li> <li>作図のやり方を拡大図や教具を使って理解させる。</li> <li>ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。</li> <li>教科書の「しあげ」の問題を自己評価させながらすすめ、復習の重点箇所を明らかにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、既習事項の確認を導入に行い、スモールステップで指導していく。</li> <li>学習したことが日常生活や他教科でも活用できるということを例示する。また、実際に算数科で学習したことを活用した活動を行い、理解が深まるようにする。</li> <li>子どもたちの生活体験に近い、身近な問題を提示し、興味・関心を深める。</li> <li>課題に応じてICTの機器等を活用するなど、問題提示を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文をよく読み、問われている内容(情報)を整理し、立式を考えることができるように指導する。</li> <li>図や表、数直線や展開図などを問題に応じて使い、自分の考えを分かりやすくノートにまとめることができるように指導する。</li> <li>分かりやすく説明したり、伝え合ったりするなど、学び合い活動の中で数学的な表現力を育成できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算能力が高まるよう、朝学習や家庭学習でプリントを活用しながら学習を繰り返す行う。</li> <li>図形の学習では、作図に取り組む時間を十分に取る。分度器、コンパス、三角定規などを使って、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目させながら、正確に作図することができるようにする。</li> <li>出した答えを見直す習慣を身に付けさせるため、検算を行うように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数のかけ算とわり算では、小数点の位置が変わる条件を理解し計算ができるように、計算ドリルやプリントに繰り返し取り組ませる。</li> <li>理解が不十分なところは、ベーシックドリル練習シートを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。</li> <li>ステップ学習の学年末まとめプリント、学力テストなどを活用したりしながら、知識・理解の定着状況を把握する。</li> <li>教科書の「しあげ」の問題を丁寧に扱うことで、学習内容が身に付いているかどうか自己評価ができ、復習をする必要のあるところを明らかにすることができるようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数への意欲を高めるために、習熟度別少人数指導を生かし、毎時間、既習事項の確認を確実にし、スモールステップで指導をしていく。</li> <li>日常生活の場面、他教科の学習の場面で、既習した算数の知識、技能、考え方を生かす活動を設定する。</li> <li>ICTの機器等を活用し、問題提示の工夫をし、関心・意欲を高めていく。</li> <li>単元の導入では、既習事項を扱うことで学びに見通しをもたせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題の構造を理解して立式できるように、「求めるもの」と「問題から読み取れること」を全体で整理・共有し、ノートにまとめられるようにする。</li> <li>既習の知識をもとにした多様な考え方の共通性や、一般性に集約できるような授業構成を計画する。</li> <li>数とその表現や計算の意味に着目し、目的に応じて多様な表現方法(線分図・数直線、図等)を用いながら、問題を考える技能や説明する力を身に付けさせる。</li> <li>百分率が弱いので、分数のかけ算、わり算、比などの学習では、必ず数直線を指導して、数量の関係を読み取らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えが正しいかどうかを確かめる検算を行い、自分の出した答えを見直す習慣を身に付けさせる。</li> <li>図や絵、数直線で表して考え、単位量あたりの大きさや百分率とグラフなどの数量関係が正しく理解できるようにする。</li> <li>小数の計算は、プリントを活用しながら、たくさん計算に取り組めるようにする。</li> <li>立体の体積では、具体物を利用しながら、立式に結びつけるなど、学習を視覚化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形や立体の名称を確実に覚え、面積や体積を求める公式の理解をさらに図れるよう、身の回りの具体的な形を考察の対象として取り上げた授業を行う。</li> <li>ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。</li> <li>4月には倍数の問題を振り返って指導する機会を設ける。</li> </ul>